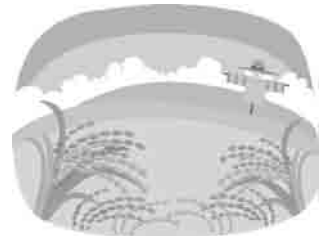


しまなみ農業だより

苗木の大害虫 ゴマダラカミキリ



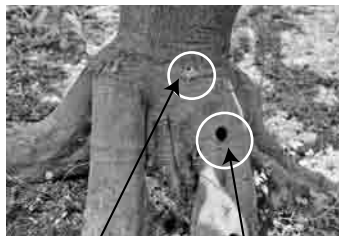
夏になると様々な昆虫が発生し、カンキツ樹に甚大な被害をもたらすものも少なくありません。中でもゴマダラカミキリ（天牛）は、以前なら上島町でほとんど見られなかったものの、ここ10年で普通に見られるようになり、新植した苗木を枯死させる被害も発生しています。

形態と生態

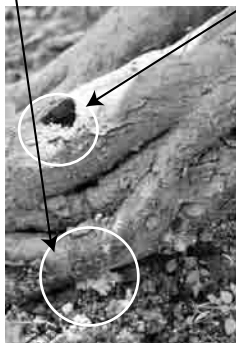
成虫は6月～8月に発生し、カンキツ類だけでなくバラ科の果樹類、ヤナギ類、クリ、クワ、イチジクなど広範囲の樹種の葉や樹皮を食べ、それらの樹に産卵します。ふ化した幼虫は樹の材部を食べ、木屑の糞を後方に排出しながらトンネルを掘り進み、翌年幹の地際近くに直径1cm程度の穴を開け、地上に羽化・脱出します。

成虫は羽化後約2週間で産卵能力を持ちます。あまり暑過ぎるのを嫌うため、午前中は樹冠上部で葉や新梢の樹皮を食べ、午後になると樹冠下の木陰に移動し、樹皮を食べたり産卵します。

普通昆虫類は、えさとなる植物に対する攻撃と、それに対する植物側の防御機能が共に進化し、結果として食べることで植物が限られているものですが、本種は逆に広範囲の樹種を食べることができるため被害を大きくしてお

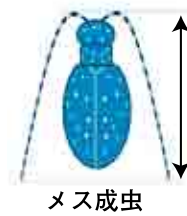


新幼虫の食入痕と成虫の脱出孔

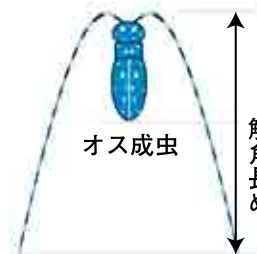


材に
トンネルを掘る

ガクズ
オ状の虫糞
を排出



メス成虫



オス成虫

触角短め

触角長め

幼虫（材を食害）

【写真の説明】
上の脱出口は今年のもの（穴の断面が新しい）、下の脱出口は古いものです。いずれも成虫が羽化脱出した痕なので、これに防除しても虫はいません。
上下の食入痕はいずれも新しく、若い（小さな）幼虫が、すぐ近くにいる可能性が高く、特徴は木屑が粗く（上）、少ない（二つまみか二つまみほど：上下）、ヤニが噴出しています。（下）。
こういう場合は樹皮をめくって捕殺したり、薬剤防除も効き易いので、早期発見、早期対処を心がけましょう。
もっと多くの木屑を排出しているものは、幼虫が成長し、樹幹の深部（主に根の方向）へ侵入し、木屑が出ているところに幼虫がいない場合が多い。こうなる
と残念ながら防除は困難です。

り、果樹類の大害虫となっております。

メスは腹部が大きく、触角が短めで頭・尻部の長さの約1.2倍まで、オスは触角が長く頭・尻部の長さの約2倍以上あります。

防除の要点

・成虫は捕殺に努めます。6～10月の、午前中は樹冠外周、午後は株元にいますので、見つけ次第捕まえて首をむしりとります。

・幼虫の食入初期であれば捕殺は可能です。樹皮をめくって幼虫を捕殺するもよし、よくわからなければ付近を金槌でゴンゴンたたいておけば圧殺できる場合があります。

・防除薬剤として、かんきつ成木の成虫に対してはモスピラン水溶液4,000倍、スプラサイド乳剤2,000倍、オリオン水和剤1,000倍、アクタラ顆粒水溶液4,000倍、ダントツ水溶液4,000倍、ハチハチフロアブル1,000倍などの樹冠散布があり、また（成木）株元への散布（成虫、幼虫の区別無し）としてモスピラン水溶液400倍、ダントツ水溶液2,000～4,000倍、苗木の株元散布用にはアクタラ顆粒水溶液10倍/25倍、ダントツ水溶液20倍の登録があります。ただし株元散布も根域深部に侵入した老齢幼虫に対しては効果が期待できません。

そのため、ゴマダラカミキリに侵入させない、侵入されても早期発見することが防除の要点となります。株元を除草し常に開けておくことが第一の要点となります。

・樹勢が弱つてくるとカミキリ成虫を呼びます。樹勢の維持に努めることが予防につながり、また、苗木に侵入され衰弱が見られた場合は、その苗木がカミキリを寄せてしまうので、早めに伐根し植え替えてしまった方が後の管理もたやすいと思われます。